

淀川 豊さん（昭和60年卒）

西和賀町議会議員（有）高橋重機工事事部 次長兼課長

◇お仕事の内容を教えてください

町議会の議員（3期目）と重機会社の管理職の仕事をしています。

議会では、産業・建設常任委員長、議会運営委員、町政調査会幹事を務めています。また、重機会社では工事事部の次長と課長を兼務するとともに、土木工事の施工管理の仕事もしています。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

作業員や住民と現場や街づくりで成果を達成できた時ですね。

◇将来の夢を教えてください

皆が共に生きられる世の中であってほしい。この思いを西和賀から伝えられたらと思っています。共に生きるってどんなことなのか、沢山、見つけていきたいです。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

高校時代は、北上線での電車通学でしたが、中学の同性の同級生もいない状況でした。

クラブ活動も途中で辞め、将来、大学進学を考えていました。

地元の高校ではなく、北上の高校に進学したわけですが、町と街の違いを肌で感じた時期でした。とにかく上級生との上下関係の厳しさには驚き、その体験は現在の人間関係にも生かされていると感じます。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

都会の人達と自分を比べるとちっぽけに感じてしまいます。しかし、人には役割があって、あなたにしかできないことが必ずあります。立派でなくともいい。あなたの役割を見つけて下さい。

☆取材後記

昭和50年代の後半、西和賀町は人口約1万人。かたや北上市は、約8万人の都会でした。そして淀川さんが大学進学で上京していた頃の東京は、バブルが膨らむ勢いある超大都会。私も九州の田舎町を出て専大に進学し東京の街に身を置いた人間なので、メッセージに込められた「自分がちっぽけな存在だと感じた」との淀川さんの思いが良く解ります。多くの専北生は今、北上で伸び伸びと過ごしていると思いますが、何れ広くてデカイ世界に出て荒波に揉まれることになるでしょう。その時、淀川さんのメッセージを思い出して下さい。そして、可能であるならば、広くてデカイ世界でも楽しく生きていけるよう、今のうちに何かに取り組んで自分を少しでも大きくしておいたほうが良いのではないのでしょうか。（担当：Y）